

編集後記

論文の一次締め切りが終わった翌週、2月23日から編集作業がスタートしました。編集作業に携わるのは初めてで、表紙のデザインくらいしか思い浮かべていなかったので「こんなにも決めることがあるのか!」と、とても驚きました。

紙の種類だけで何十とあり、しかも表紙と中の紙は異なります。文字のフォントやサイズに加え配置、空白の埋め方・・・頭で考えるのと、それが実体になったときではずいぶん異なります。校正も骨の折れる作業でした。

考えてみれば当たり前ですが、書いたものを「本にする」というのは、何段階ものステップを踏みます。決めてしまえば作業に移すのは簡単ですが、決めるまでに時間がかかる。編集とは作ることでなく、たくさん案を出し、試行錯誤することなのだと感じました。

締め切りに追われながらも、研究室で先生や先輩と、ときにはお菓子を食べながら、楽しく作業することができました。アイデアが手で触ることのできる「カタチ」になるのって、いいですね。

山城先輩神でした。発言は少ないのに、採用回数は最多でした。私は喋っているだけでした。アイデアが一番たくさん出しましたが、採用はいちばん少ないです。ドヤ

そして加藤先輩は校正の神ですね!「ミスなし!」と言う私の隣で6つも間違いを発見・・・もはや才能です(@_@)! 役立たずでほんまスマセン/(^o^)\ 【のん】



タイトルが決まった時の先生の嬉しそうな顔が忘れられません。来年も再来年もこの企画が続いていくことを今から楽しみにしています。ラインで編集委員会グループを作っていましたが、真夜中の先生からの連投に参りました。【まや】

一瞬でも編集に関われた事を嬉しく思うと共に、委員の皆様にはご迷惑をおかけしたかと…スマセン(;_;)本の誕生にあたり沢山のドラマと出会えた事に感謝して。【さいこ】

私が関与することができた作業はごく一部でしたが、パソコンを自在に操る委員の方々の楽しそうな表情と、一緒に画面を見つめられる先生の嬉しそうな表情が強く印象に残っています。【ゆい】

編集会議はその人が持つ特技や新たな一面が見られた貴重な時間でした。デザイナーのような手さばきを見たので、私にもデザイン性が少し身に付いた気がします!笑【しょうこ】

編集らしい作業は他の委員さんに任せ切りでしたが、みなさんのアイデアからデザインを考えて作るのがすごく楽しかったです。アツアツのお茶とお菓子がおしかったです。【まどかし】

小川先生神でした。いろいろ考えたのですが結局小川越えならず・・・神を踏襲することに。けど書籍化は学生の動機付けにも良いやり方ですね。

当初考えてたタイトルは「奈良女生が見た 2012 年の日本文化」など(@_@;) 学生に考えてもらってホント良かった。編集会議で出た 20 の「報告」の部分の他候補。現実(リアル)/景色/人間科学/視点/切り口/窓/楽園/しるし/雑音(ノイズ)・・・20の楽園公社【こうし】

執筆者

稲垣綾・松本麻野・山城才子（博士前期課程人間文化研究科1年生）

石野日香里・加藤柚衣・那須千浩・吉村未優（人間科学科3年生）

太田成美・小田優佳・小幡祥子・小池真央・嵯峨理紗・鈴木りほ・谷口ひとみ・土井七海

中場愛・中家まどか・浜田優里・瀧本結・林喜子（人間科学科2年生）



奈良女×文化 2012 編集委員会

小幡祥子・加藤柚衣・中家まどか・林喜子・松本麻野・山城才子・鈴木康史

編集協力・嵯峨理紗

表紙・扉・中扉・目次デザイン

中家まどか

奈良女×文化 2012 “今をめぐる20の報告”

身体文化学演習・学生たちの論文集

非売品

2013年3月11日発行

編集 奈良女×文化 2012 編集委員会

発行 奈良女子大学文学部 人間科学科 教育学・人間学コース
〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部

問い合わせ 鈴木康史研究室 0742-20-3346 kosuzu@cc.nara-wu.ac.jp

印刷・製本 株式会社オーエム

本書収録の論文は教育学・人間学コースHPでも公開予定です。

<http://www.nara-wu.ac.jp/bungaku/kyouikuningen/> にアクセスしてください。